

# 予備的考察

はじめに <sup>003</sup>

1 近代陸軍の建設 <sup>004</sup>

徴兵制度の確立／政治への不関与／参謀本部と師団制度／軍令と帝国国防方針

2 明治憲法の弱点 <sup>015</sup>

運営の難しい国家／第一次世界大戦の衝撃／政党の時代／陸軍の状況

3 派閥の逆説 <sup>022</sup>

派閥というものの／長州閥／主流派とは何か／日露戦争後の陸軍／長州閥から宇垣へ

注 <sup>034</sup>

## 政治と軍事の病理学

はじめに <sup>039</sup>

1 藩閥支配の時代 <sup>044</sup>

軍民未分化の時代／薩長主流派と近代軍事制度

## 2 藩閥から軍へ

052

帝国国防方針の成立／海軍の近代化と陸海の対立／藩閥指導者の役割／大正政変／藩閥型統合の終焉

### 3 政党と軍縮の時代

063

原内閣下の軍備拡張／政党—軍関係の改革／軍縮の時代／脅威の認識／中国問題と陸軍

### 4 昭和の陸軍

075

反宇垣勢力の台頭／満蒙問題の意義／第二次宇垣軍政の課題／宇垣・南路線の没落／  
皇道派時代／永田派の台頭／二・二六事件と肅軍／間接的・合法的支配

終わりに 089

注 093

### コラム 幻の軍団制

096

## 第二章 支那課官僚の役割

はじめに

105

### 1 組織の中の支那通

107

参謀本部第二部長／支那課長／公使館付武官／関東軍参謀長

2 反袁政策——一九一五——六（大正四——五）年<sup>118</sup>

第一期——帝制延期勧告／第二期——倒袁政策の決定と支那通の活動／第三期——倒袁政策の実施と問題の噴出

3 援張政策——一九二三——五（大正十一——十四）年<sup>119</sup>

援張政策の再検討／新支那通の台頭

おわりに<sup>141</sup>

注<sup>143</sup>

補論  
満州事変とは何だったのか<sup>148</sup>

満蒙権益觀の変遷／満州の中国化／陸軍の動向／吉野作造の批判／満州事変が変えたもの

注<sup>160</sup>

陸軍派閥対立（一九三一—一三五）の再検討  
はじめに<sup>163</sup>

# 1 南軍政の展開 <sup>169</sup>

軍制改革問題／満州問題／皇道派の台頭

## 2 派閥対立の推移 <sup>189</sup>

皇道派支配の確立／対立の激化と均衡／皇道派の没落

## 3 対外政策 <sup>207</sup>

内田外交と南系／広田外交と皇道派

## 4 国防政策 <sup>229</sup>

皇道派の対ソ国防政策／対ソ国防政策の転換

おわりに <sup>248</sup>

注 <sup>253</sup>

### 第四章

## 宇垣一成の一五年戦争批判

はじめに <sup>269</sup>

満州事変以前 <sup>271</sup>

2 滿州事変期 <sup>276</sup>

柳条湖事件の勃発と拡大／斎藤内閣と国際連盟脱退

### 3 準戦間期

285

広田外交への疑問／華北分離工作／一一・一二六事件の衝撃

#### 4 日中戦争期の勃発

298

日中戦争の勃発と拡大／近衛との距離／東亞新秩序／平沼内閣批判

#### 5 世界大戦の勃発

323

阿部内閣批判／米内内閣への期待と失望／第二次近衛内閣の成立

#### 6 日米戦争への道

334

独ソ戦の勃発／日米戦争

おわりに

342

注 345

あとがき

349

初出一覧

363